

海外農業研修報告書（6月）

岩崎 真衣沙

2018/7/3

日本の6月と言ったらジメジメとした梅雨を思い浮かべますが、こちらはとてもカラッとした天気が続いています。牛を放牧地に放していますが牛にとっても暑いようで日陰に時々牛が密集して休んでいます。



日陰で休憩中



放牧地には9頭しか残っておらず…

（他の牛は牛舎に戻ったよう）

仕事の後、お姉さんと旦那さんと一緒にオープンファームに行ってきました。オープンファームとは農場によって土曜日、もしくは年に1度一般の方も入れるよう開催しているものです。今回 Campina という会社（日本で言う雪印、森永に似たもの）が年に1度いろんな農場で開催するオープンファームに行きました。私がお世話になっている農場も Campina に所属しているので今回の農場視察はとても興味深かったです。



入り口はこのようなものが
近くの駐車場がいっぱいで、たくさ
んの人であふれていました

こちらの農場は主にロボット搾乳を導入していました。搾乳牛 100 頭に対してロボットを 2 台とのことでした。1 台のロボットに対して 60 頭が目安ということを知ったことから、大変余裕をもって牛の搾乳ができるなと思いました。

また 2006 年からロボット搾乳を使って仕事をしているそうです。牛舎の壁は吹き抜けになっており、風も通りやすくされており、牛舎内の見通しにも工夫が施されていました。



牛にとって快適な環境に間違いなし

これが搾乳ロボットです。私の農場で使われているものより 1 つ新しいモデルで、私も見るのが初めてでした。タッチパネルが搭載されていてとても使いやすそうでした。



ロボットについて説明して一般の方に伝えている

Campina のスタッフの方が子供たちに搾乳で使うバケット (持ち運び可能な搾乳機) で吸引力を試させていました。子供たちもとても楽しそうでした。



6月を振り返って

こちらでの生活、仕事にある程度余裕が持てるようになりました。とても楽しく生活をしています。毎月毎月が本当にあっという間でとても焦ります。もっといろんな農場や人と出会って話をしていきたいと思います。